

東京アマデウス合唱団

第24回定期演奏会

ドイツ・バロックの名曲

Heinrich Schütz

Georg Philipp Telemann

Dietrich Buxtehude

Tokyo Amadeus Chorus



カトリック麻布教会
2005年11月3日（祝・木）



ご挨拶

本日はお忙しい中をご来場いただき、団員一同に代わり厚くお礼申し上げます。

1981年の第1回から続いております定期演奏会も、本日で第24回を迎えることとなりました。

前は、イタリアのカトリックの名曲を演奏しましたので、今回はドイツ年に因み、ドイツ・バロックの3人の作曲家の名曲を選んでみました。

昨年に引き続きカトリック麻布教会からの深甚なるご好意とご配慮を賜り、この素晴らしい礼拝堂で演奏できますことを団員一同心から感謝しております。

少人数の合唱団には、いろいろと難しい面もありますが、水野先生の懇切なご指導に加え、練習ピアニストの堀江和子さんのほか、海保あけみさん・片桐恵里さん・伊藤恵以子さんという素晴らしい伴奏者に助けられ、また、皆様方からの暖かい励ましにも支えられて、この演奏会を開催できますことを、団員一同心から嬉しく思っております。

今宵はドイツ・バロックの名曲を、この荘厳な礼拝堂の中でゆっくりとお楽しみいただければ幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 哲

PROGRAM

第1ステージ

1.ハインリッヒ・シュッツ(1585~1672)

Heinrich Schütz

『12の教会聖歌集』 Zwölf geistliche Gesänge より

- 主よ、とこしえに居ます御父なる神よ、憐れみ給え(ドイツ・ミサ「キリエ」のために)
Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit (SWV 420)
- 誉れと賞賛はことごとく御神のものなるべし(ドイツ・ミサ「グローリア」のために)
All Ehr und Lob soll Gottes sein (SWV 421)
- 我、唯一の御神を信ず(ドイツ・ミサ「クレド」のために)
Ich glaube an einen einigen Gott (SWV 422)
- 我、心を尽くして主に感謝を捧ぐ(詩篇 111)
Ich danke dem Herrn von ganzem Herzen (SWV 424)
- わが魂は主をあがめまつる(ドイツ・「マグニフィカート」)
Meine Seele erhebt den Herren (SWV 426)

休 憩

第2ステージ

2.ゲオルク フィリップ テレマン(1681~1767)

Georg Philipp Telemann

『四つのモテット』 Vier Motetten より

- 我らの主イエス・キリストの御神よ
Der Gott unsers Herrn Jesu Christi
- 我らによりて御神称えられ
Es segne uns Gott
- アーメン、賞賛も誉れも英知も感謝も賛美も力も強きも我らが御神のもの
Amen, Lob und Ehre und Weisheit und Dank und Preis und Kraft und Stärke

3.ディートリッヒ ブクステフーデ(1637~1707)

Dietrich Buxtehude

カンタータ Kantate

- 主よ、み言葉により我らを守りて
Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort
- 主ともに居ませば、我恐れじ
Der Herr ist mit mir, darum fürchte ich mich nicht

(選曲 辻村順子)

PROFILE

指揮 水野克彦



東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。
オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。
藝大バッハカンタータクラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。日本オルガニスト協会会員。

ヴァイオリンⅠ 海保あけみ



東京藝術大学卒業。ヴァイオリンを正岡紘子、山岡耕作、日高毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫氏に師事。
又、藝大バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導を受ける。
現在フリーの演奏家として、室内楽・オーケストラ等の演奏を中心に活動中。

ヴァイオリンⅡ 片桐恵里



武蔵野音大付属高校卒業。
東京藝術大学音楽部卒業。同大学院修了。
ヴァイオリンを掛谷洋三氏、浦川宣也氏に、室内楽を、ピュイグ・ロジェ女史、ルイ・グレーラー氏に師事。
第四回埼玉県新人演奏会に出演。
東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。

チェロ 伊藤恵以子



東京藝術大学卒業。同大学院博士課程修了。チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。
パリ・エコールノルマルで学ぶ。
第48回日本音楽コンクール入選。
Ensemble Delice のメンバー。

オルガン 堀江和子(練習ピアニスト)



武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。
キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究課程修了。
ピアノを水本雄三、野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。現在、茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者、日本オルガン研究会会員。

演奏曲目解説

ハインリッヒ・シュッツ (Heinrich Schütz 1585-1672) は 1617 年にザクセン選帝侯ヨハン・ゲオルク(Johann Georg) I 世のもとで長いあいだにわたる事になる宮廷楽長の任に就いて以後、新旧両様式の総合をはかりながらドイツ・プロテスタント教会音楽の基礎を築いて来た。したがって、彼の作品のなかにカトリック音楽と深く通底するものも多く見られるのは当然である。『十二の教会聖歌集』(Zwölf geistliche Gesänge)は、三十年戦争が終りを告げてから約十年後の 1657 年、彼が七十一歳のときヨハン・ゲオルク I 世が他界し、II 世が選帝侯の後を継いで彼の願いどおりに引退が認められた時期にドレスデンで出版された。この出版はシュッツが直接行ったものではなく、その承認のもとに Christoph Kittel が自分で紙を提供して編集し、公にしたのであった。曲集は 1.Kyrie,Gott Vater in Ewigkeit(盛儀ミサ:ラテン語トロープス Kyrie, fons bonitatis に基づく) 2.All Ehr und Lob soll Gottes sein(ドイツ語グローリア) 3.Ich glaube an einen einigen Gott(ニケア信条) 4.Unser Herr Jesus Christus,in der Nacht(聖餐式の導入のことば) 5.Ich danke dem Herrn von ganzem Herren(詩編 111) 6.Danksagen wir alle Gott 7. Meine Seele erhebt den Herren(マグニフィカート) 8.O süßer Jesu Christ(H.Bernhardi による祝祭歌) 9.Kyrie eleison,Christe eleison(ラテン語聖歌通常式文) 10.Aller Augen warten auf dich(食事の感謝の歌) 11.Danket dem Herren,denn er ist freundlich(食後の感謝の祈り) 12.Christe fac ut sapiam(真の英知のための賛歌)という内容で、今回の演奏ではそのうちの五曲を取り上げるのである。

Kyrie,Gott Vater in Ewigkeit (SWV420 曲集第 1 曲) は、ミサの入祭唱に続いて歌われる憐れみの賛歌 Kyrie eleison の典礼文のなかにそれを装飾する新たな言葉を挿入し、新しい旋律をつけたトロープス(tropus)として 11、12 世紀頃から 16 世紀のトレントの公会議で廃されるまで行われた Kyrie,fons bonitatis の旋律に、歌詞をドイツ語により敷衍し改めて福音ルーテル教会で現在に至るまで使われているミサ典礼聖歌を、四声のフーガ風のポリフォニーに編曲したもので、各パートが交替に原曲の旋律の各節を先唱し合いながらフーガの主題を次々に変え、コーダ三拍子に変わって喜びを舞曲風に表現して、eleison で歌い収める。原曲どおり三部で構成され、四声合唱に通奏低音のみが付く。バッハが 1739 年刊行のドイツ・オルガン・ミサのなかにこの聖歌をコラルにして遺している(BWV669)。

All Ehr und Lob soll Gottes sein (SWV421 曲集第 2 曲) は、ラテン語ミサの栄光の賛歌 Gloria in excelsis に対応する歌詞を 1537 年に Martin Luther が作り、復活祭のときに歌われる Gloria の旋律(10 世紀以来使用された)に付けたのを、のちに改編して現行の聖歌にしたと伝えられる。このシュッツの曲は、その聖歌の冒頭を先唱者の独唱またはユニゾンの合唱で歌い、続く交唱の部分を略式ミサの手法で原曲からモチーフを借りてそれを巧みに自由に変形させながら、フーガ風な展開を見せている。この曲も四声合唱にオルガンの通奏低音のみが付く。

Ich glaube an einen einigen Gott (SWV422 曲集第 3 曲) は、ラテン語ミサの信仰宣言 Credo に対応させて Matthäus Greitter が 1525 年ドイツ語によってニカイア・コンスタンチノポリス信条(ニケア信条)を翻訳し、一部を改編したもので、ルター派はこの信条を使徒信条、アタナシオ信条、アウグスブルク弁証論、大教理問答、小教理問答ほかいくつかの信条とともに認め、礼拝に用いている。ルター派はもう一つのクレドに対応する聖歌 **Wir glauben all an einen Gott** を持っていて、その方は前年 1524 年に Martin Luther が同じ信条を三節折り返しの形の聖歌にまとめたものである。シュッツの曲の場合、歌詞はルーテル教会のドイツ語ニケア信条告白の本文をごく一部の例外を除き、ほぼ忠実に採用していて、礼拝の聖歌の歌詞よりはるかに精確である。曲はやはり略式ミサの手法で書かれていて、各パートの歌唱が歌詞全文を唱える訳ではなく、往々にしてそれを分担し合いながら一部を省略して進行する。フーガ風の展開を見せていながら、信仰宣言の主要な部分はホモフォニーで引き締めるといふ構成が採られている。

Ich danke dem Herrn von ganzem Herzen(SWV424 曲集第 5 曲) は、詩編第 111 篇のドイツ語訳に頌詠を付けたもので、主の御業の感謝と賛美が内容になっている。特に「主を畏れる事は智慧のはじめ」は余りにも有名な聖句である。カトリックのラテン語聖歌では詩編 110 とされている晩課のなかの Confitebor tibi Domine がこの曲と対応する。ルーテル教会では感謝祭の礼拝と三位一体の主日に入祭唱または奉獻唱に用いられる詩編である。この詩編の冒頭「私は主に心を尽くして感謝をささげます」以下の部分が礼拝の主題となるために、ソプラノが遅いテンポでその朗唱を印象付けるように歌い出し、それを他のパートがポリフォニーで飾る。続いて主の御業を賛美する言葉が語られる部分は主要なメッセージが提示されるモノフォニックな動きとその他の部分のフーガ風の動きを交互に重ね、「賛美はとこしえに続くでしょう」という聖句をモノフォニーで歌い収めて、コーダの頌詠の部分に入り、やがて三拍子に変わって終結する。

Meine Seele erhebt den Herrn(SWV426 曲集第 7 曲) は、ルカ 1.46-55 のマリアの賛歌を歌うラテン語聖歌 *magnificat* を Luther 訳によるドイツ語聖書にほぼ準拠したテキストに改め、頌詠を添えたもので、ルーテル教会ではこのテキストをタベの祈りのときに《Christus unsern Heiland, ewigen Gott, Marien Sohn, preisen wir in Ewigkeit. Amen.》という先唱をつけて交唱で歌う。カトリックでは晩課の中で歌われる聖母の頌歌 (Canticum) として用いられる重要な賛歌であるが、プロテスタント教会では 7 月 2 日のマリアのエリサベト御訪問の祝日に晩課もしくはタベの祈りの聖歌というよりも朗誦として用いて来た。バッハがこのテキストによってカンタータ作品(BWV10)やオルガン前奏曲(BWV648)を遺している事はよく知られているが、シュッツのこの曲はこのドイツ語テキストの完璧なポリフォニーとして筆頭に数えられるものである。曲は交唱のテキスト分割をほぼそのまま守り、歌詞の内容に則してモチーフやリズムを次々に変え、例えば《*er zerstreuet* 主は散らされる》という言葉を一パートずつで繰り返して交唱させたりするなど内容の表現にもさまざまな工夫が施されている。

ゲオルグ・フィリップ・テーレマン (Georg Philipp Telemann 1681-1767) は、シュッツの次の世代のバロック後期の作曲家で、1721 年以降ハンブルクに終生滞在して 18 世紀前半のドイツにおいて大きな存在を占めたが、現在ではバッハやヘンデルの音楽の高い評価のかけに隠れて、器楽曲を除けばその声楽曲などは忘れられた存在になっている。しかし、彼は生涯に 1400 曲以上の驚くべき量のカンタータを作曲し、モテットも 25 曲遺している。その忘れられたモテット作品から四曲を Wesley K.Morgan が編集して、1967 年に Das Chorwerk シリーズ 104 として、『四つのモテット』と題して出版したものから三曲を今回演奏する。曲集には今回演奏される三曲のほか 8 声のモテット Halt was du hast が含まれている。

Der Gott unsers Herrn Jesu Christi(TWV08:4 曲集第 2 曲)は、通奏低音付きの四声のモテットで、テーレマンは 1723 年に復活祭後第 4 主日の礼拝のために同じテキストを使ってカンタータ作品 (TWV 1 : 257) も公にしている。このモテットのコピーには「聖霊降臨祭の無事を祈って、晩課を行った夕べに」と書かれていて、この曲が初めて使われたときの機会がどのようなものであったかを示唆している。新約聖書エフェソの信徒への手紙 1.17-18 に基づいてテキストが作られていると考えられている。シュッツが歌詞の言葉の美から音楽を引き出そうとしたのに対して、テーレマンは器楽の合奏を思わせるような展開の流れに歌詞を載せるのが得意であった。この曲は歌詞の前半を前奏風に Tutti で歌い出し、後半はフーガに構成されている。主題は素朴であるが、バロックの色彩を十分に帯びた展開を示す作品である

Es segne uns Gott(TWV08:8 曲集第 3 曲)も、通奏低音のみの四声モテットで、詩編 67.8 のドイツ語訳テキストを用いて神に祝福を求め、この世のすべてのものが神を畏れることを祈る内容になっている。どのような動機からこの作品が生まれたかは明らかでない。歌詞の前半は一種の悲壮感を漂わせて重く歌われ、後半は同じ短調であるが一転してやや軽いフーガで歌われる。この曲を編集出版した Wesley K.Morgan は埋葬の歌であることを想像しているが、むしろ戦争などの試練を背景に作られたのかもしれない。但し、新年 1 月に入って降誕祭から八日目の主日に行われる聖母マリアの大祝日のミサでは、Ehre sei Gott が歌われたあと、聖書朗読として民数記 6.22-27 が読まれ、続いてこの詩編 67(旧テキストは 66)が答誦されるので、或は関係が有るかもしれない。

Amen, Lob und Ehre(TWV08:1 曲集第 4 曲)は、ソプラノ、アルト、バスの三声合唱に通奏低音が付くもので、《Amen, Lob und Ehre und Weisheit und Dank und Preis und Kraft und Stärke sei unserm Gott von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.》の部分は新約聖書ヨハネ黙示録 7.11 の言葉で、テーレマンはほかに同じテキストを用いたカンタータ Amen, amen, Lob und Ehre を器楽付きで作曲している (TWV01 : 91,92)。コラールは受難週に歌われる聖歌 O Haupt voll Blut und Wunden を旋律に用いているが、歌詞は年の変わり目の新年を迎えるときに歌われる内容になっている。旋律はキリストによって「古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」というパウロの言葉を思い起こさせる。

ディートリッヒ・ブックステフーデ (Dieterich Buxtehude 1637-1707) は、前半生をシュッツの晩年と時代を共にし、後半生はテレマンの青年期と時代を共にしている。1668年以降北ドイツのリューベックの聖マリア教会 (der Marienkirche) で約四十年間オルガニストの任に在った。その作品には常にオルガン音楽もしくは器楽曲の感覚が働いているが、ここに演奏する二曲もコンチェルト・グロッソの形式を採り入れていて、合奏の一役を合唱が担っているような感を聴く者に与える。

Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort(BUXWV27)は、カンタータとして作曲され、合奏のトゥッティのようにして歌われるその合唱の部分が、1543年に Martin Luther が中世の旋律に歌詞を付けた聖歌をソプラノが繰り返し、他のパートがそれに和声を付けるという構成になっている。後半リトルネルロの部分の第4節と第5節の歌詞(《Verleih uns Frieden》以下)は聖歌では歌われない。なお、ブックステフーデはオルガンのために同じ聖歌を用いてコラル前奏曲も作曲している (BUXWV185)。

Der Herr ist mit mir (BUXWV15) も、カンタータとして作曲され、同じくコンチェルト・グロッソ風の構成やオルガン音楽のような動きが見られる。テキストは詩編 118.6,7 が使われている。パウロが新約聖書ローマの信徒への手紙 8.31 にこの聖句を引用したことで、この言葉がよく知られるようになった。曲は常に器楽風の軽さを保っているが、特に終結のアレルヤ唱に入ってからには非常に軽快で、弦楽器の動きや鍵盤楽器の動きがそのまま合唱の動きになっている典型的な見本を呈している。ブックステフーデは、その手法を用いることによって、歌詞が繰り返す「主はわたしの味方、わたしは誰をおそれよう」(新共同訳詩編 118.6) の背後にある信頼と恐れからの解放感をあらわそうとしているのである。

17世紀にイタリアで生まれたカンタータがバロック時代を象徴する音楽形式であると考えられたほどに、18世紀のドイツではバッハの作品に代表されるような多くのカンタータ作品が作られた。ブックステフーデもテレマンもその例外ではなかったが、シュッツはカンタータの存在を知っていたはずなのにもかかわらず作らなかった。それは、シュッツの曲がオーケストラを使わずに、通奏低音のみを伴奏に用いてア・カペラに近い形で歌うように書かれたためである。今回の演奏曲目の内容からバロック音楽の変遷史をかいま見ていただければ、と思う。

(文責：野口 碩)

Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit (SWV420)
(Deutsches Kyrie)

Zwölf geistliche Gesänge(1657)Op.13 No. 1

Kyrie, Gott Vater in Ewigkeit,
groß ist Dein Barmherzigkeit,
aller Ding ein Schöpfer und Regierer,
eleison.

Christe ,aller Welt Trost,
uns Sünder allein du hast erlöst,
O Jesu, Gottes Sohn, unser Mittler,
bist in dem höchsten Thron,
zu Dir schreien wir aus Herzens Begier:
eleison.

Kyrie, Gott Heiliger Geist,
tröst, stärk uns im Glauben allermeist,
daß wir am letzten End fröhlich
uns scheiden(abscheiden) aus diesem Elend,
eleison.

All Ehr und Lob soll Gottes sein (SWV421)
(Deutsches Gloria)

Zwölf geistliche Gesänge(1657)Op.13 No.2
(Intonation)

All Ehr und Lob soll Gottes sein,
er ist und heißt der Höchste' allein.
(Chorus)

Sein Zorn auf Erden hab(hat) ein End,
sein Fried und Gnad sich zu uns wend;
den Menschen das gefalle wohl,
dafür man herzlich danken soll.
O lieber Gott, dich loben wir und preisen dich
mit ganzer Begier:
auch knieend wir anbeten dich,
dein Ehr wir rühmen stetiglich.
Wir danken dir zu aller Zeit
um deine große Herrlichkeit.
Herr Gott, im Himmel König du bist,
ein Vater, der allmächtig ist.
Du, Gottes Sohn, vom Vater bist einig geboren,
Herr Jesu Christ.
Herr Gott, du zartes Gotteslamm,
ein Sohn aus Gott des Vaters Stamm,
der du der Welt Sünd trägst allein,

Heinrich Schütz ハインリッヒ・シュッツ
(略式ミサ：ドイツ語式文・キリエ)

『12の教会聖歌集』作品13第1曲
主よ、とこしへの御父であられる神さま、
あなたの慈しみは絶大です、
万物の創造者にして統治者であられるお方、
どうぞお憐れみください。

キリストさま、全世界の慰めぬしよ、
あなたは罪人に過ぎない私たちをお救い下さいました、
おイエスさま、神の御子よ、私たちの仲保者よ、
あなたはいと高き御座にいまし、
私たちはあなたに心からの渴望を叫んでいるのです。
どうぞお憐れみください。

主よ、聖霊であられる神さま、
最高の信仰で私たちを安らかにし、強めてください、
いまわの時に、私たちが喜びにひたりながら
この苦しみから離れるように、
どうぞお憐れみください。

Heinrich Schütz ハインリッヒ・シュッツ
(略式ミサ：ドイツ語式文・グローリア)

『12の教会聖歌集』作品13第2
(斉唱による唱え始め)
すべての栄光と称賛は神のものであるはずで、
神さまだけがいと高きお方であり、そう呼ばれるからです。
(オルガンと通奏低音付きの合唱)
この世では神の御怒りがおさまり、
その平和と御恩寵が私たちへ向けて注がれるのです、
すなわち御意にかなう人々に。
その故に人は心から感謝をささげるべきです。
おお愛する神さま、私たちはあなたを愛して誉め称えます、
思いを尽くして。
また、私たちはひざまずいてあなたを崇めます。
あなたの栄光を絶えず誉め称えます、
あなたにいかなる時にも感謝をささげます、
あなたの大いなるすばらしさのゆえに。
神さま、あなたは天に在っては王であられ、
全能の御父です。
神の御子よ、あなたは御父からひとり子としてお生まれに
なりました、イエス・キリストさま。
神さま、あなたはかよわい神の小羊、
御父を幹として神よりお生まれになった御子、
あなたこそこの世の罪をひとりで負われるお方、

wollst uns gnädig, barmherzig sein;
der du der Welt Sünd'trägst allein,
laß dir unser Bitt' gefällig sein.
Der du gleich sitzest dem Vater dein,
wollst uns gnädig, barmherzig sein,
Du bist und bleibst heilig allein,
über alles der Herr allein.
Der Allerhöchst allein du bist,
du lieber Heiland Jesu Christ,
samt dem Vater und Heiligen Geist,
an göttlicher Majestät gleich.
Amen, das ist gewißlich wahr,
das bekennt aller Engel Schar und alle Welt
so weit und breit von nun an bis in Ewigkeit.
Amen.

Ich glaube an einen einigen Gott(SWV422)
(Deutsches Credo)
Zwölf geistliche Gesänge(1657)Op.13 No.3

Ich glaube an einen einigen Gott,
allmächtigen Vater,
Schöpfer Himmels und der Erden,
alles, was sichtbar und unsichtbar ist.
Und an einen einigen Herren Jesum Christum,
Gottes einigen Sohn,
der vom Vater geboren ist vor der ganzen Welt,
Gott von Gott, Licht vom Licht,
wahrhaftigen Gott vom wahrhaftigen Gott,
geboren, nicht geschaffen,
mit dem Vater einerlei Wesens,
durch welchen alles geschaffen ist,
welcher um uns Menschen
und um unsrer Seligkeit willen
vom Himmel kommen ist
und leibhaftig worden durch den Heiligen Geist
von der Jungfrauen Maria und Mensch worden.
Auch für uns gekreuziget unter Pontio Pilato,
gelitten und begraben und am dritten Tage
auferstanden nach der Schrift
und ist aufgefahren gen Himmel
und sitzt zu der Rechten des Vaters
und wird wiederkommen,
zu richten die Lebendigen und die Toten,
des Reich kein Ende haben wird.

私たちを慈悲深くお憐れみ下さいますように。
あなたこそこの世の罪をひとりで負われるお方、
私たちの願いがあなたの御意に召していただけますように。
あなたこそ御父と同様の立場に座されるお方、
私たちを慈悲深くお憐れみ下さいますように。
あなたこそ聖なるお方、いつまでも。
あなたこそすべての者の主であられるお方。
あなたこそ至高のお方、
あなたはむしろ救い主イエス・キリスト、
御父と御聖霊と共に
神の御稜威においてひとしくあられます。
アーメン。確かにその通り。
その事はすべての御使いの群と全世界が
今より永遠に至るまで津津浦浦で告白するでしょう。
アーメン。

Heinrich Schütz ハインリッヒ・シュッツ
(略式ミサ：ドイツ語式文・クレド ニケア信条)
『12の教会聖歌集』作品 13 第 3

私は唯一の神、
全能の御父、
天地の造り主、
見えるものと見えざるものすべての造り主を信じます。
そして唯一の主イエス・キリスト、
神の御ひとり子、
この世の成らぬ前に御父からお生まれになったお方、
神より出られた神さま、光より出られた光、
まことの神より出られたまことの神さまを、
作られたのではなく、お生まれになられたお方、
御父と同種の御性質をそなえ、
それによってすべてが造られているお方、
私たち人類のために、
しかも私たちの救いのために
天から来られ、
御聖霊により処女マリアより肉体の姿に成られ、
人と成られたお方を信じます。
さらに私たちのためにポンテオ・ピラトのもので十字架に
つけられ、苦しみを受けて葬られ、そして三日目に
聖書にしたがってよみがえられ、
天へと昇られ、
御父の右に座され、
また戻って来ようとされています、
生けるものと死せるものとを裁かれるために。
その御国は尽き果てることがないでしょう。

Und an den Herrn, den Heiligen Geist,
der da lebendig macht,
der von dem Vater und dem Sohn ausgehet,
der mit dem Vater und dem Sohne
zugleich angebetet und zugleich geehret wird,
der durch die Propheten geredt hat.
Und eine einige heilige, christliche, apostolische
Kirche.
Ich bekenne eine einige Taufe zur Vergebung
der Sünden und warte auf die Auferstehung der
Toten und ein Leben der zukünftigen Welt.
Amen.

そして主を、すなわち御聖霊を、
その御国にて生かしてくださるお方、
御父と御子から出られたお方、
御父と御子とともに
同時に崇められ、同時に敬われるお方、
預言者を通して語って来られたお方を信じます。
そして唯一の聖なるキリストの使徒伝来の
教会を信じます。
私は罪の赦しの唯一のバプテスマを認め、
死者のよみがえりと
来るべき世の生を待ち望みます。
アーメン。

Psalm 111 Ich danke dem Herrn von ganzem Herzen(SWV424)

Zwölf geistliche Gesänge(1657)Op.13 No.5
Ich danke dem Herrn von ganzem Herzen
im Rat der Frommen und in der Gemeinde.
Groß sind die Werke des Herren;
wer ihr achtet, der hat eitel Lust dran.
Was er ordnet, das ist löblich und herrlich;
und seine Gerechtigkeit währet ewiglich.
Er hat ein Gedächtnis gestiftet seiner Wunder,
der gnädige und barmherzige Herr.
Er gibet Speise denen, so ihn fürchten;
er gedenket ewiglich an seinen Bund.
Er läßt verkündigen seine gewaltigen Taten
seinem Volk, daß er ihnen gebe das Erbe der
Heiden.
Die Werk seiner Hände sind Wahrheit und
Recht; alle seine Gebote sind rechtschaffen.
Sie werden erhalten immer und ewiglich
und geschehen treulich und redlich.
Er sendet eine Erlösung seinem Volk;
er verheißet, daß sein Bund ewiglich bleiben soll.
Heilig, heilig und hehr ist sein Name.
Die Furcht des Herren ist der Weisheit Anfang;
Das ist eine feine Klugheit;
wer darnach tut,
des Lob bleibet ewiglich.
Lob und Preis sei Gott dem Vater und dem Sohne
und dem Heiligen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit.
Amen.

Heinrich Schütz ハイน์リッヒ・シュッツ
「詩編 111 篇」

『12の教会聖歌集』作品 13 第 5
私は主に心を尽くして感謝をささげます、
信心深い者の集い、会衆の中で。
主の御業は大きく、
その御業を重んずる者はただそれを喜ぶだけです。
主が秩序を与えられることは賞賛に値し、すばらしく、
その正義はとこしえに続く。
主はその驚くべき御業の記念を設けられた、
恵み深く、憐れみに富む主よ。
主は御自分を畏れるものに食物を与え、
御自分の契約をとこしえに御意に留められます。
主は御自分の力ある御業を
御自分の民に告げ知らせ、異教徒たちの嗣業を彼らにお与
えになりました。
その御手の御業は真理にして
正義、そのおきてはすべて公正です。
それらはいつも、いついつまでも保たれ、
忠実にその通りまっすぐに身にふりかかるのです。
主は御自分の民に救いを送り、
そのおきてがとこしえに存続すべき事を告げておられます。
主の御名はいと聖にして崇高なるかな。
主を畏れることは智慧の初め。
それはすばらしく賢い事です。
その者はその通りに行い、
賛美はとこしえに続くでしょう。
賛美と賞賛が父と子と
聖霊の神さまにありますように、
初めにそうであったように、今もいつも、
そしてとこしえからとこしえに至るまで。
アーメン。

**Meine Seele erhebt den Herren (SWV426)
(Deutsches Magnificat)**

Zwölf geistliche Gesänge(1657)Op.13 No.7

Meine Seele erhebt den Herren,
und mein Geist freuet sich Gottes,
meines Heilandes.
Denn er hat seine elende Magd angesehen.
Siehe, von nun an werden mich selig preisen alle
Kindeskinder.
Denn er hat große Dinge an mir getan,
der da mächtig ist,
und des Name heilig ist.
Und seine Barmherzigkeit währet immer für und
für bei denen, die ihn fürchten.
Er übet Gewalt mit seinem Arm:
er zerstreuet,
die hoffärtig sind in ihres Herzens Sinn.
Er stößt die Gewaltigen vom Stuhl,
und erhöht die Niedrigen.
Die Hungerigen füllet er mit Gütern
und läßt die Reichen leer.
Er denket der Barmherzigkeit und hilft seinem
Diener Israel auf, wie er gerecht hat unsern
Vätern, Abraham und seinem Samen ewiglich.
Ehre sei dem Vater und dem Sohn
und auch dem Heiligen Geiste,
wie es war im Anfang, jetzt und immerdar
und von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.

**Heinrich Schütz ハインリッヒ・シュッツ
(ドイツ語式文・マグニフィカート)**

『12の教会聖歌集』作品13第7

私の魂は主をあがめ、
私の霊は神さまのなされたことを嬉しくおもいます、
私の救い主のなされたことを。
なぜなら主は自分の賤しい婢女に目を留められたからです。
御覧ください、今からのちすべての後続くものたちが、
私を幸せ者と称えるようになるでしょう。
なぜなら主は私に大いなる事を行って下さったからです。
ですから、この方は力のあるお方で、
その御名は尊い。
そしてその憐れみはずっといつまでも
この方を畏れる者のもとで続きます。
主はその御腕で権能を行使されて
散らされます、
その心の思いにおいて高ぶる者たちを。
主は権力のある者たちをその座から追放し、
身分の低い者たちを高くされます。
主は飢えた者たちを良い物で満たし、
裕福な人々を空虚にして置かれます。
主は憐れみについて思慮をめぐらし、御自分の
僕イスラエルに助けを出されます、私たちの先祖アブラハ
ムとその子孫にとこしえにわたって語られて来たように。
御父と御子に栄光、
そして御聖霊にも、
初めにそうであったように、今もいつも
そしてとこしえからとこしえに至るまで。アーメン。

————— 休 憩 —————

**Der Gott unsers Herrn Jesu Christi
Vier Motetten No.2**

Der Gott unsers Herrn Jesu Christi,
der Vater der Herrlichkeit, gebe euch
den Geist der Weisheit und der Offenbarung
zu seiner selbst Erkenntnis
und erleuchtete Augen eures Verständnis,
daß ihr erkennen möget, welches da sei die
Hoffnung eures Berufs,
und welches sei der Reichtum seines herrlichen
Erbes an seinen Heiligen.

**Georg Philipp Telemann ゲオルグ・フィリップ・テールマン
『四つのモテット』より第2曲**

私たちの主であられるイエス・キリストの神さま、
栄光の君の御父よ、彼らに
英知と啓示の霊をお授け下さい、
彼らが自分を認識する事ができるように。
そして彼らの理解の眼に光をお与えを下さって、
彼らにそのどれが
自分の召命として望むべき天職なのか、
そして何が聖なる者に属する自分の栄光の遺産の富なのか
が、見分けのつくようにして下さい。

Es segne uns Gott
Vier Motetten No.3

Es segne uns Gott, unser Gott,
und alle Welt fürchte ihn.

Amen, Lob und Ehre
Vier Motetten No.4

Amen, Lob und Ehre und Weisheit und Dank und
Preis und Kraft und Stärke sei unserm Gott
von Ewigkeit zu Ewigkeit, Amen.
(コラール)

Heut ist das Jahr beschlossen,
Herr deine Gnad sei heut
auf mich neu ausgegossen,
mein Herz wird auch erneut.
Leg ich ab alte Sünden,
so werd ich Gott,
bei dir auch neuen Segen finden:
dein Wort verspricht es mir.

Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort
(Kantate)

Erhalt uns, Herr, bei deinem Wort
und steure deiner Feinde Mord,
die Jesum Christum, deinen Sohn
stürzen wollen von seinem Thron.

Beweis dein Macht, Herr Jesu Christ,
der du Herr aller Herren bist,
beschirm dein arme Christenheit,
daß sie dich lob in Ewigkeit.

Gott heil'ger Geist, du Tröster wert:
gib dein Volk einerlei Sinn auf Erd,
steh bei uns in der letzten Not,
g'leit uns ins Leben aus dem Tod.

Verleih uns Frieden gnädiglich, Herr Gott,
zu unsern Zeiten,
es ist doch ja kein anderer nicht,
der für uns könnte streiten,
denn du, Herr Gott, alleine.

Georg Philipp Telemann ゲオルグ・フィリップ・テーレマン
『四つのモテット』より第3曲

私たちに祝福が与えられますように、神さま、私たちの神
さま、そして全世界が神を畏れるように成りますように。

Georg Philipp Telemann ゲオルグ・フィリップ・テーレマン
『四つのモテット』より第4曲

アーメン。称賛も誉れも英知も感謝も
賛美も力も強さも私たちの神様のもの、
とこしえからとこしえに至るまで。アーメン。

今日は今年のとじられる日、
主よ、今日こそあなたの恵みが
私の上に新たに注がれますように。
私の心も新たにされることでしょう。
私がふるき罪を捨てれば、
その事によって、神よ、
あなたに新しい祝福を見出すことでしょう、
あなたの御言葉がその事を約束して下さい。

Dietrich Buxtehude デイトリッヒ・ブックステフーデ
(マルチン・ルター作聖歌にもとづくカンタータ)

主よ、私たちをあなたの御言葉によって保って下さい、
そしてあなたの敵どもの人殺しを抑止して下さい、
彼らはあなたの御子イエス・キリストを
その御座から突き落とそうとしているのです。

あなたの権能のしるし、イエス・キリストさま。
あなたこそ主の主です。
あなたの貧しい全キリスト教徒をお守り下さるなら、彼ら
はあなたをとこしえに誉め称えるでしょう。

御聖霊なる神さま、あなたは慰め主になられ、
御自分の民にこの世で同じ意識を持つようにされました。
いまわの苦しみのときに、私たちのそばに居てくださって、
私たちが死から命へ連れて行って下さい。

私たちに御慈悲ですから平和を下さい、神さま、
私たちの時のために。
ほかに居ないではありませんか、
私たちのために戦ってくださる方が。
だから、神様、あなただけなのです。

Gib unserm König und aller Obrigkeit Fried
und gut Regiment,
daß wir unter ihnen
ein geruhig und stilles Leben führen mögen,
in aller Gottseligkeit und Ehrbarkeit.

Amen.

Der Herr ist mit mir
(Kantate)

Der Herr ist mit mir,
darum fürchte ich mich nicht.

Was können mir Menschen tun?
(以上の歌詞を再び繰り返す)

Der Herr ist mit mir zu helfen.
Was können mir Menschen tun?

Der Herr ist mit mir zu helfen, und ich will meine
Lust sehen an meinen Feinden.

Der Herr ist mit mir zu helfen.
Was können mir Menschen tun?

Der Herr ist mit mir zu helfen.

Alleluia.

私たちの王とすべての支配筋に平和と
よい政治をお与え下さい、
なぜなら、私たちは彼らのもとで
落ち着いた静かな生活をしたいのですから、
あらゆる神の至福と実直さのなかで。

アーメン。

Dietrich Buxtehude デイトリッヒ・ブックステフーデ
(カンタータ)

主が共に居られるので、
私は恐ろしくありません。

誰に何をすることができようか。

主が共に居て助けてくださる。
誰に何をすることができようか。

主が共に居て助けてくださる、だから自分の
敵を見つめる私の士気が欲しい。

主が共に居て助けてくださる。
誰に何をすることができようか。

主が共に居て助けてくださる。

アレルヤ。

(訳詩 野口 碩)

東京アマデウス合唱団のご案内（2005.11 現在）

本日はお忙しい中、我々の為にわざわざ時間を割いてご来場を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、ご来場の皆様方のうち、すでにご存知の方々も多いかと思いますが、初めてこの合唱団の演奏をお聴きになれる方々のために、少しご案内させていただきたいと思っております。

この合唱団は、1980年「モーツァルトのレクイエム」を自分たちの手で演奏したいという夢を持つアマチュアの仲間たちが集まって創立しました。

以来、モーツァルトのほか古典派の作品を中心とした宗教曲を、ほぼ毎年1回の定期演奏会で演奏してまいりました。

今年で25周年を迎えましたが、これまでに演奏した曲の主なものを後のページに掲載致しましたのでご覧下さい。

この合唱団は、指導者の招聘・指揮者の選定・会場設定・演奏する曲目の選定・プログラムの作成・演奏曲目の解説から訳詩に至るまで、全てが団員の労力と団員の資金のみで成り立っており、手作りの演奏会を開催しているユニークな合唱団としての存在価値を、団員一同が誇りとしております。

創立当初に比べて、団員もかなり少なくなりましたが、少人数に適したルネッサンス、バロック時代の宗教曲を積極的に取り上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い隠れた名曲を歌ってみたい方をお誘いしながら、なんとか存続させたいという団員の強い意志に支えられて、現在に至っております。

今後の活動予定は次ページの通りですが、少人数でのアンサンブルを一緒に楽しみたい方や興味のある方が居られましたら、是非一度練習会場にお出掛け頂き、見学だけでも大歓迎ですので練習状況等をご覧頂きたいと願っております。

次ページおよび下記ホームページをご参照の上、「護国寺」の同仁キリスト教会内の「美登里幼稚園」へお出掛けいただきたく、団員一同期待してお待ちしております。

（事務局 大久保ルミ子）

東京アマデウス合唱団

ソプラノ 安東峰子・辻村順子・松木香織
アルト 伊藤正子・大久保ルミ子・大友美佐・小川由美子・宮崎米子
テノール 伊原 宏・小沢 仁・片岡 繁
バス 柿沼 誓・野口 碩

[ホームページ]

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

今後の活動予定

第25回定期演奏会

予 定 2006年11月3日(祝・金)

場 所 カトリック麻布教会(予定)

演奏曲目(予定)

ゼレンカ：聖週間のためのレスポンソリア

没後300年を迎える「パッヘルベル」の作品

(2007年秋の予定—没後300年記念として「ブクステフデ」の作品)

参加ご希望の方へ

お問い合わせ先

辻村 順子 048-476-4056

大久保ルミ子 03-3960-7714

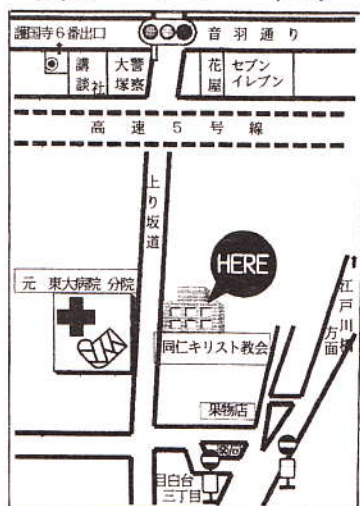
練習日 毎週水曜日 午後6時半～9時

練習会場 同仁キリスト教会 美登里幼稚園2F(下図参照)

指導者 水野 克彦

会 費 月額4千円(学生2千円)

案内図



* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車

6番出口から徒歩5分

または

* JR山手線目白駅より

都バス「椿山荘または

新宿西口行き」で

目白台3丁目下車徒歩3分

演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>、アヴェ・ヴェルム・コルプス)等	寺村博司
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己
第3回	1982.22	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デプレ、シュッツ等	鈴木 優
第4回	1983.09	モーツァルト(戴冠式ミサ、ミサ・プレヴィイス 220)、ヴィクトリア等	黒岩英臣
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>、ミサ・プレヴィイス 194)	黒岩英臣
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ 106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセ・ミサ)、ヴィクトリア(アヴェ・マリア)等	鈴木 優
第8回	1987.10	シュッツ (ムジカーリッシェ・エクゼクティオン)、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、F.J.ハイドン(ミサ・プレヴィイス)等	齋藤明生
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>、ミサ・プレヴィイス 140)	齋藤明生
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デプレ(パンジェ・リングガ)、ハスラー等	齋藤明生
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア 243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)等	齋藤明生
第13回	1992.11	シャルパンティエ(真夜中のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ等	齋藤明生
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィイス 275)、アルブレヒツベルガー	齋藤明生
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>、等)=渋谷混声と合同	齋藤明生
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ 182)、ブクステフーデ(ミサ・プレヴィイス)等	齋藤明生
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、アルブレヒツベルガー等	齋藤明生
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス 337、テ・デウム・ラウドムス)等	齋藤明生
第18回	1998.10	J. S. バッハ(カンタータ 61,196)、D. スカルラッティ	齋藤明生
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン等	齋藤明生
齋藤先生追悼	2000.07	ハスラー(ミサ・セクンダ)、F.メンデルスゾーン、ホミリウス等	水野克彦
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(アルカト、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、パレストリーナ)等	水野克彦
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、F. J. ハイドン等	水野克彦
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ)	水野克彦
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルブレヒツベルガー	水野克彦
第23回	2004.10	D. スカルラッティ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦
第24回	2005.11	シュッツ、テレマン、ブクステフーデ (カンタータ)	水野克彦